

平成 1 5 年度の長崎県総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

総合水産試験場は、平成 9 年の供用開始以来今年で 7 年目を迎えました。関係の皆様方には、当水試の試験研究の推進に多大なご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県水産業の振興のため、様々な施策が実施されていますが、総合水産試験場では平成 1 3 年に策定した「総合水産試験場試験研究基本計画」に基づき、水産振興策の実現に向けた技術的な支援のため、各種の試験研究や技術開発に取り組んでいます。

その中でも「水産資源の的確な評価と有効かつ持続的利用」、「放流技術の向上による栽培漁業の充実」、「沿岸環境保全対策の推進」、「水産物の高付加価値化の推進」などに積極的に取り組んでいます。

分野別の研究事業件数と事業費

(研究分野)	(件数)	(万円)
○水産資源	5	2 , 2 3 7
○栽培漁業	4	1 , 5 6 1
○沿岸環境保全	1 0	4 , 6 2 4
○水産養殖	4	2 , 2 7 5
○種苗生産	3	7 , 3 5 3
(放流用及び養殖用)		
○水産加工	3	1 , 2 6 8
○漁業技術・その他	3	1 , 6 8 6
合計	3 2	2 1 , 0 0 4



水産試験場全景

主な事業と新規事業の紹介

(事業費 万円)

1 地域型資源管理予測技術開発試験

3 0 9

本県周辺海域の地域特産種 (現在の取組魚種 キビナゴ、ミズイカ、タチウオ) の資源管理のため、資源予測の技術を開発します。

2 干潟活用環境改善方策調査研究

1 , 0 5 8

沿岸環境改善としての干潟の保全・造成手法の開発に役立てるため、底生生物等の浄化能力について現場調査や干潟実験装置を用いた実験を行います。

3 高水温対応型食用海藻増養殖技術開発研究

(新規)

3 0 0

近年の秋～冬期の高水温化傾向に対応した新養殖種の開発や既存養殖種の管理技術や品種改良に取り組めます。

4 第 2 期魚介類種苗量産技術開発研究

5 , 3 3 0

新たな放流用種苗及び養殖用種苗を大量生産する技術を開発し、県下の種苗生産機関へ技術移転することにより、種苗量産技術の実用化を図ります。(現在の取組種 早期ブリ、ホシガレイ、オニオコゼなど)

5 有明海特産種二枚貝類の種苗生産技術開発

(新規)

4 2 3

有明海特産種二枚貝類で資源量の減少が著しいクマサルボウ、スミノエガキなどの種苗生産技術を開発し、資源の回復に役立てます。

6 低・未利用水産資源利用技術開発

4 5 0

低未利用魚種 (アイゴ・イスズミなど) の栄養成分や加工原料特性・最適加工法の把握を行い、加工による資源の有効活用を図ります。

7 沿岸漁業開発調査

8 5 5

漁業者からの要請に応じた定置網漁場診断等の調査、資源管理型漁業の推進のための試験・調査、及び沿岸漁場の海底地形図の作成などを行います。

新たな連携統括組織の設置と連携プロジェクトへの取り組み

横断的・総合的な研究開発を一元的に推進するため、当総合水産試験場を含む県下7つの公設試験研究機関を連携・統括する組織(科学技術振興課)が、本年4月に設置されました。

これに伴い、各公設試連携のもとプロジェクト研究に取り組むことになり、本年度は総合水産試験場が主担当する「藻場再生プロジェクト」を含め二つのプロジェクトに着手します。「藻場再生プロジェクト」については、次号で詳細を紹介する予定です。

おわりに

以上、本年度の取り組みの概要を紹介しましたが、総合水産試験場は、今後とも「開かれた総合水産試験場」として、漁業者の目線に立ち、水産業に直結し役立つ試験研究を推進していきますので、皆様方からご意見、ご要望がありましたら最寄りの水産業普及指導センターか、直接、総合水産試験場までご連絡いただきますようお願いいたします。



本施設で生産したホシガレイ稚魚



調査船「鶴丸」